

加東市公共施設の適正化フォーラム

市が進める公共施設の適正化について、まちづくりに取り組む「輝く加東まちづくりコンソーシアム」により、1月24日、「加東市公共施設の適正化フォーラム」が開催されました。同フォーラムでは、国立大学法人兵庫教育大学の加治佐学長の基調講演や、このたび市が提示した公共施設適正配置計画案の説明などに続き、市民7人をパネリストに迎えたパネルディスカッションが行われました。今月号では、パネルディスカッションでパネリストの方々が表示されたご意見等をご紹介します。

問い合わせ 企画部企画政策課(庁舎4階) ☎43-0389



○NPO法人
加東市国際交流協会理事長
東条西事務局長

公共施設の適正化は、いかには取り組まなければいけない問題だとは思いますが、一方的に打ち出されたという感じで、もっと住民に説明する時間が必要ではないかと思っています。

まず、スポーツクラブ事務局長の立場から申しますと、新庁舎の建設に伴って社中央体育館が取り壊され、そのしわ寄せで東条地域の小中学校の体育館が結構使われています。この状況で、さらに東条地域の体育館が無くなると、スポーツクラブの活動ができなくなってしまう。東条地域からスカイピア(滝野総合公園体育館)までは距離があり、気軽には行けません。現在、公共施設の適正化については、取り壊しのイメー

ジが先行し「夢が無い」と感じます。取り壊すならば、例えば市民プールを備えたような新たな総合施設を持つてくるとか、夢のある施策を打ち出してほしいと思います。

コスミックホールに関して、木管コンタールのスタッフとして、ボランティアもしていましたので、非常に思い入れが深いホールです。ただ、稼働率が低く、著名な音楽家を呼んできても満杯になることはほとんどありませんでした。そういうことを考えてみると、これを残していくことが、将来の子どもたちにつけを残すことにはならないかと心配になります。維持管理費にどれだけ必要なのかなど、市はしっかりと示される必要があると思います。



小中一貫校に関しては、国際交流協会の理事長の立場として、折角やるのだったら英語教育に力を入れるとか、情報教育に力を入れるとか、県下がない、また日本にないようなスペシャルな学校にしてもらって、もっと加東市に若い人が定着するような夢のある学校にしてほしいと思います。



○きよみずバス協議会会長
西嶋孝夫さん

そういう意味で、今のコスミックホールではなく、東条グラウンド周辺で考えていただいたら、近くに保育園もありますので、小中一貫プラス保育園も巻き込んだ取り組みもできるのではないかと思います。



○加東市まちづくり推進市民会議委員
豊福乃子さん

小中一貫教育についてのお話を聞いて、よいところも課題もいっぱいあるように思いました。

加東市のまちづくりの指針に総合計画後期基本計画があるので、その指標に『学校教育の充実』として、将来あるべき姿の一つに『集団活動や地域の大人との交流、自然とのふれあいなどを通して、規範意識、信頼感や自信などの自尊心、他者への思いやりや感動する心など、豊かな人間性が育まれています』と書かれています。まさしくこの一貫教育についての未来像と公共施設の適正化に絡んで、将来に向けてこの姿であることを祈っているわけです。この小中一貫教育の実現にあたっては、その学校の地域の方や保護者の方と十分な会話を

行って、今ある課題を克服し、

児童生徒たちに最適な学習の場を提供していただけるようにしてほしいと思いました。

また、後期基本計画の施策の一つ、行財政の改革の中に『公共施設の適正化とあわせて4万人市民の様々な活動を支えるための公共施設の更新・整備について取り組んでいきます』とあります。まさしく公共施設の適正化案についてのことだと思いました。

個人的な意見ですが、ある一定の条件のもとで、統廃合はやむを得ないことだと思っ

はなく、心の中で感じるの一番だと思えます。

最後に、統合した結果、行財政サービスの低下や利便性の悪さ、そして、今みなさんが心に思っている不満。これが残らないようにしながら、財政負担を少しでも少なくするように、実行していただきたいと思えます。



○加東市立福田小学校校長
藤原哲史さん

本日はオーブンスクールで併せてマラソン大会を開催しました。保護者だけではなく地域の方もコースに出て『しっかり走れよ』『がんばれよ』と声をかけていただきました。これは顔の見える学校

のよさの一つであると思えます。

1・2年生の交流させてもらうなどの『小小連携』を、子どもが少ない学校では進められないかもしれないことと

また、1年から6年まで縦割りや仲良し班を作って、掃除や運動会などの行事に取り組んでいます。切磋琢磨して互いが競い合う環境をどのようににつくりだすのか、また学習集団として、本来の運動の特性や楽しさに触れさせているか、やはり大きな工夫が必要だと思えます。

お互いをよく知っている少ない人数の中でのよさも当然あるのですが、子どものコミュニケーション能力や、人との関係をつなぐ力をどのように育てていくのか、これは小規模の学校が抱える大きな課題であると思えます。

うのは、効果があることなのかと思えます。

